

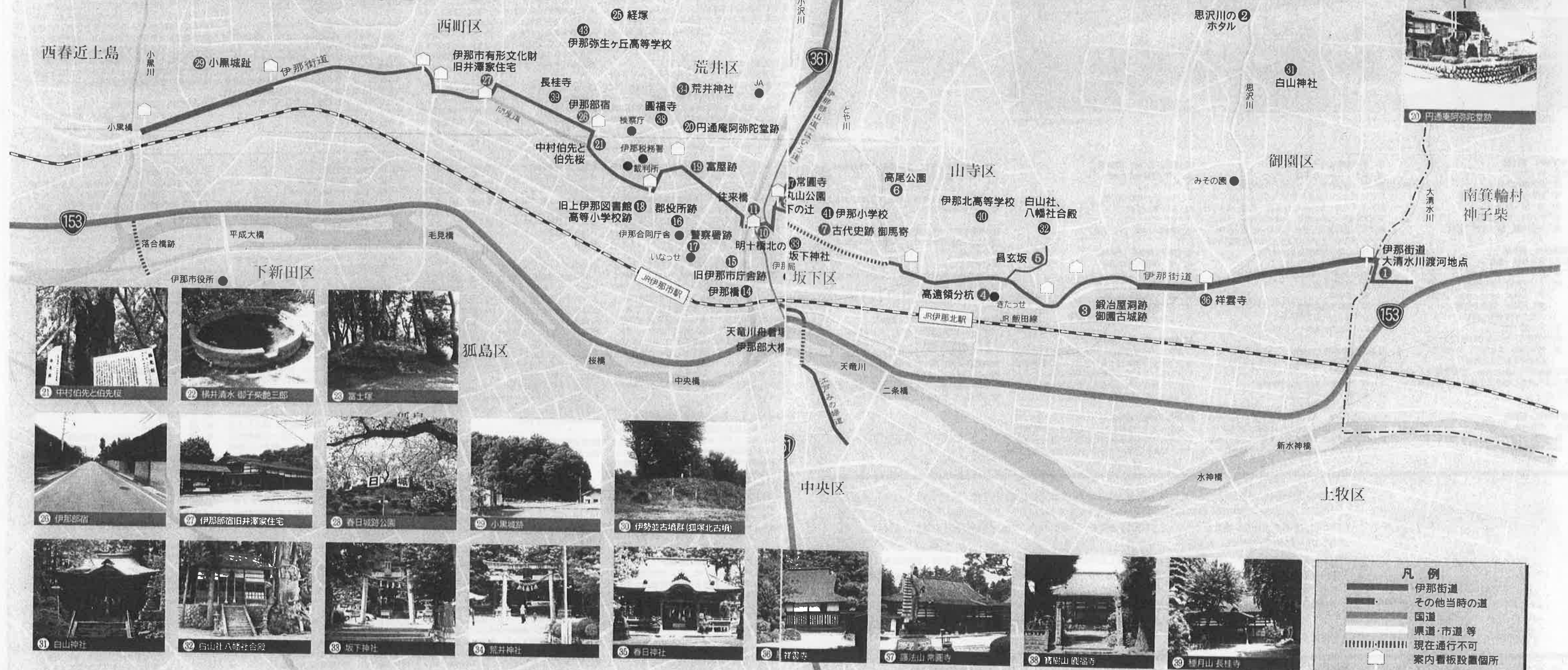


小出

広域農道

伊勢並古墳群

街なかいいとて発見
歴史の道 **伊那街道**
散策マップ



凡例

	伊那街道
	その他当時の道
	国道
	県道・市道等
	現在通行不可
	案内看板設置箇所

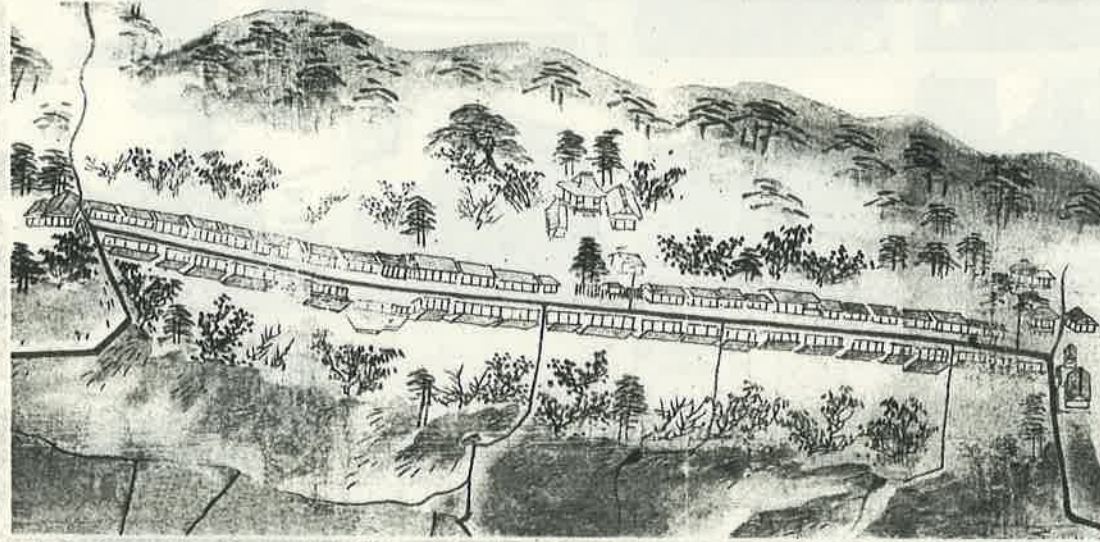
0 200 400m

伊那街道とは

伊那谷には今を去る千年の昔、東山道があった。その後戦国時代の春日街道や更に伊那街道などがある。木曾谷には古くから五街道の一つとされる公的な中山道があった。これに対し伊那街道は、その脇道として、善光寺やお伊勢参り、また戸隠もうてなど、更に農民の副業として物資輸送の中馬道、あるいは塩の道などとも呼ばれ、庶民の道として親しまれた街道でもあった。南は愛知県境の根羽宿から飯田城下を経て塩尻宿までおよそ135kmで、伊那谷特有の田切地形の扇状地を巧に利用しながら、天竜川西岸を北上している。これら台地の直下には、豊富な湧水が街道の各所に見られ、旅人の喉を潤してくれた。伊那谷で最もひろけた地形は伊那市付近である。東方はるかみはるかす南アルプスの山並。ここに坂下の辻がある。多くの旅人が行き交うこの十字路は、東西南北多岐の文化交流をもたらした辻でもあった。「伊那街道歩こう会」の案内マップを参考に先人の残した歴史の道を散策すれば、古里再発見など必ずや得るものがあるかと思われる。



南アルプスと伊那市街



江戸中期の伊那郡善光寺(西区有)

歴史の道 伊那街道を歩こう

街なかいいと発見 伊那街道の見どころ

- 伊那街道 大清水川渡河地点
大清水川はその源流は西貢輪大萱方面である。下流にあっては、この河川をもって伊那市と南箕輪村の境としている。
伊那街道は、南箕輪村中子柴の南端国道153線と分かれ、路傍に庚申塚を見ながら、大清水を渡河して伊那市御園へ入る。川をふちを真西に向かつて西上して、現道へと合流する。(庚申塚付近は兼宗堂または、金剛院跡と伝承されている)
思沢川のほとり 御園区
御園区の中央を流れる思沢川の上流「雀が池」には毎年6月中旬から下旬にかけ源氏ホテルが見事な光の乱舞を見せてくれる。
伊那市の「まはら伊那いいとこ百選」にも選ばれている。
御園区民の有志約100人による「思沢川にホテルを育てる会」が組織されており、ホテルが自然繁殖している環境を維持するための活動が行われている。
現地へは伊那インターへのアクセス道路からサービスセンター「みその園」を目指すことでホテルの見どころになる6月中旬からは案内標識が貼られている。
殿治屋跡と御園古城跡 御園区・山寺区
御園アクセス道路全線(インター〜水神町)開通に伴ない、深い谷であった殿治屋跡は埋められたが、御園古城と深い関係ある地帯である。
古城は秀吉の家臣で飯田城主松平康和の重臣で、上伊那一帯の支配を命ぜられた伊那郡代、御子柴六左門の居城とされている。かつて一帯は高い丘であったので街道はそこをよけて西側を通っていた。この古城跡には明治初期山園学校が建てられた。
高尾山分坑 山寺区
「從是南高尾嶺」(これより南、たかとうりょう)現山寺区八幡町 きたつせの前庭南西角地に建てられている高尾嶺を示す分坑である。
分坑は他嶺との境界線上に建てられるものだが、ここは境界線上に該当しない。なぜか足下に説明文が付けられている。

- 坂下神社 坂下区
神社名 坂下神社
位置 伊那市坂下3273
祭神 建御名方命 玉依比売命
氏子 坂下一円
例祭 十月十一日・日曜日
神楽 湯立神事 浦安の舞 お興
荒井神社 荒井区
神社名 荒井神社 郷社
位置 伊那市荒井4318-1
祭神 下村三吉宮 白山権現 秋葉大権現 第六天宮宮 上村三神宮 火山祇命 棧名大明神 諏訪大明神
大正八年現在地へ合祀
氏子 荒井区一円
例祭 十月十、十一日(体育の日)
神楽 浦安の舞 屋台獅子 子供御興、長持かつぎ、子供相撲
中でも屋台獅子は昭和初期、飯田松尾より伝授したもので雌雄二頭による素朴な演舞は観客を魅了する。

- 子 西町区一円
例祭 十月十一日曜日
神楽 浦安の舞 湯立神事 子供御興
同社は往古より西伊那郡村(西町村、荒井村)の氏子であった。西町村と鳥居、荒井村と参道と鳥居の二筋の参道(平成21年現在)があり、維持管理費は西町約65%荒井約35%であった。大正八年、荒井区が大規模な神社建設が完成されるに伴い負担率は解消された。
寶樹山 龍福寺 荒井区
位置 伊那市荒井3553
宗旨 天台宗
本尊 聖観世音如来立像
開基 惠心僧都
開山 閉基に同じ
武田勝頼朱印状、寺領安堵
豊月山 長柱寺 西町区
位置 伊那市西町5582
宗旨 曹洞宗
本尊 聖観世音菩薩坐像
開基 空外安心大和尚
開山 竹藏僧大和尚
天正19年太閤検地帳には長慶寺。

- 伊那北高等学校 山寺区
前身は「伊那中学校」であるが開校は長野県告示で大正9年4月1日である。時に校舎建築中半であったため一時間借り授業があったようである。建築場所は山寺区の現在地である。昭和23年4月新制高校として発足した。
伊那小学校 山寺区
明治5年筑摩県指令により旧来の各部落にあった寺子屋から本格的な公立学校建設が各集落毎にできた。続いて竜西地では山園学校(御園、

山寺)。西伊那郡学校(荒井西町)伊那西学校(小沢、平沢)、横山支校、四校に統一されたが間もなく、これらは統一されて伊那尋常小学校が現在地馬寄の地に建設された。開校式は明治31年11月23日新嘗祭の佳日に行っている。
伊那中学校 荒井区
現在地に建設されたのは、昭和28〜29年度である。此の地は字蓮台といひ、荒井、西町で佛事に使用した塚があった。一帯は美田であったが、昭和27年伊那土地改良区園地整備事業が開始されたが、伊那中学校建設がほぼ決定したので該当を土地改良区から除外した経緯がある。
伊那衛生ヶ丘高等学校 西町区
現在地に建設されたのは、大正10年〜11年であるが、高校の前は、上伊那図書館(荒井区桜町)の位置に、明治21年高等小学校が、その後伊那実業高等女学校が建設された。その後大正8年6月の伊那町大火により焼失し、これを期に現在地に移転した。大正11年に東立移移、昭和23年新制高校、付近の女学校を合併。

- 伊那郡役所、伊那警察署、高等小学校跡 荒井区
「明治21年5月8日、郡役所、警察署、高等小学校、開庁、開校式執行花火打上」室町久保村三郎記録帳による。三つの公事が荒井区青木町及び桜町に完成した。郡役所は青木町にあり、後地方事務所合庁へと変わり、警察署は郡役所の前であり、その後山寺、更に中央区へと移転、高等小学校は郡役所の南隣の現在「旧上伊那図書館」の位置に建てられたが、その後名称も何回となく変更され、大正8年の大火で郡役所と共に消失した。旧上伊那図書館は、昭和5年、伊那富村の武居覚太郎氏の多大の援助を受け同年12月開校式を挙行している。
伊那郡宿最大の旅籠富屋跡 荒井区
伊那街道は農民の副業とする中馬の往来がはげしかったことから中馬道などとも言われた。ところが伊那郡宿では馬は泊めてくれなかった。大馬の富屋は馬宿を兼ねた旅籠であり、隣接の家と二軒(牛宿)で経営した。共に事業に成功し、荒井区切っ手の豪農であった。敷地は伊那郡宿本宿の個人宅地の約5倍の広大な中に建物があり、裏には小規模の牧場があった。又建物玄關口には木戸番が常駐していた。当家は昭和20年代伊那町長を勤めている。

- 伊那郡宿 西町区
特徴 明治27年5月に開通した三州街道が宿場と関係なく、下段を通過したため、江戸時代の遺構を何等こわすことなく現在に留めている。果下でも貴重な存在である。
状況 天正19年太閤検地帳に16戸の屋敷と20戸の在家人記事がある。
延長 330m(約180間)
出入口 南北出入口(鐘手) 樹形構築
伊那郡宿 西町区
特徴 明治27年5月に開通した三州街道が宿場と関係なく、下段を通過したため、江戸時代の遺構を何等こわすことなく現在に留めている。果下でも貴重な存在である。
状況 天正19年太閤検地帳に16戸の屋敷と20戸の在家人記事がある。
延長 330m(約180間)
出入口 南北出入口(鐘手) 樹形構築

され、煙火打上げ、夜店などあり、近隣参詣者で賑わった。又終戦後は公園の一角に平和の塔が建てられ、毎年祭事が行われている。
例祭 8月6日 広島原爆投下の日 祭事 サイレンが鳴り、参列者一同黙祷 献花、旗掲揚、不戦の誓い。
坂下の辻 山寺区・坂下区
その昔、小沢川北の飯田領と高尾嶺で、前後数十年に及び境界争いがあった。寛文十年に結審され、下附された絵図に与地に向かって大きな道(現361号)が「伊奈郡山道」として示される。ここには市教育委員会建立の案内板があるので、一読をおすすめする。
道標 右ぜんかうじ 左はびる 道 荒井村伊藤 香助 注 大塚の旅籠富屋伊藤家のこと 丁石 羽山山まで五十四丁 第一番 嘉永五年三月吉日 発起人四人 他世路人宮下源八 右 善光寺道 左 木曾路 享保二十一年 他各種供養塚多数

- 明十橋北の辻 坂下区
小沢川左岸、江戸時代の往来橋ともて建立されていた遺構である。
右 江戸みの緒 道 左 ぜんかう寺 道標は坂下区明十橋ともて旧家福沢家さぬき屋の裏庭に保管されていたが、平成23年10月、小沢川北ともに移設された。道しるべの意味は、川を南から北へ渡れば、右方向は高尾城下を経て江戸へ出る。左へ進めば善光寺方面のこと。文政8年7月、施主さし物屋乙吉とある。
往来橋(現明十橋) 坂下区・荒井区
現在の明十橋は明治10年(1877)、旧来の江戸時代の往来橋を改良して新架設したものである。時に、この橋だけでなく江戸時代の伊那街道の曲折部分の大改修が行われた年でもあった。旧来の土橋(手すりのない橋)を明治10年近代的な手摺付橋となし、時の年号を採って明十橋と名付けた。やがて橋より南は荒井区元町が商店街として発展し、坂下区仲町、入舟町が発見し、此橋を中心軸として伊那町のメイン通りが形成されていった。

伊那地域協議会は、平成20年度に「地域の身近な資源を生かした地域活性化策」の方策について検討してまいりました。その結果、天竜川の西側を貫く伊那街道は、御園から市街地を通る小黒川まで、その街道筋には歴史を感じさせる名所・旧跡が沢山あることから、街なかのいいとこ箇所を選定し、「歴史の道 伊那街道を歩こう」をキャッチフレーズに活動していくことを決定しました。
実施にあたっては、本年、地域協議会が企画・立案した内容を基に、御園・山寺・坂下・荒井・西町の各区地域役員と関係する地域協議会委員とが一体となって「伊那街道を歩こう会」を組織し、市の地域づくり活動支援事業の採択を受けて取り組むことになりました。
具体的な内容としては、「いいとこ箇所」のマップ及び案内板作製、歴史の学習会とウォーキングイベントを実施するもので、これらの取り組みを通じて伊那街道を広く市民に紹介し、住民相互の交流が図られることにより、地域の活性化に繋がっていくことを期待しております。